刀　銘　主馬首一平安代　一口

【所　在　地】鹿児島市城山町７－２　県歴史資料センター黎明館
【種　　別】県指定有形文化財（工芸品）
【指定年月日】昭和 31 年９月 27 日

法量　長さ 72.7cm，反り 1.8cm
形状　鎬造り，庵棟，身幅は頃合いで，反り高く中鋒。
鍛え　小板目に流れ肌交じる。総体につみ，地沸よくつき，地景ごころ入る。
刃文　直刃調に浅く湾れて，わずかに互の目を交じえ，沸匂深く，荒沸つく。
帽子　小丸。
茎　　生ぶで，先は栗尻，鑢目は桧垣，目釘孔１個。

主馬首一平安代の父は，山城守安貞で，喜入の刀工中村家から出て玉置家を継いだ。安代は，安貞の長子として延宝８（1680）年に生まれた。鍛刀の技術は，父安貞ならびに波平安国について学んだ。享保６（1721）年には，将軍吉宗の命により江戸浜御殿で刀を打ち，その功により茎に一葉葵紋を切ることを許され，江戸からの帰途京都において主馬首を受領した。この時，安代と共に薩摩新刀を代表する城下の刀工宮原正清も主水正を受領している。さらに享保９（1724）年にも，再度将軍家から刀の注文があり，正清と共に献上した。享保 13（1728）年 11 月没。